

6 田無駅西部地域

(1) 地域の現況

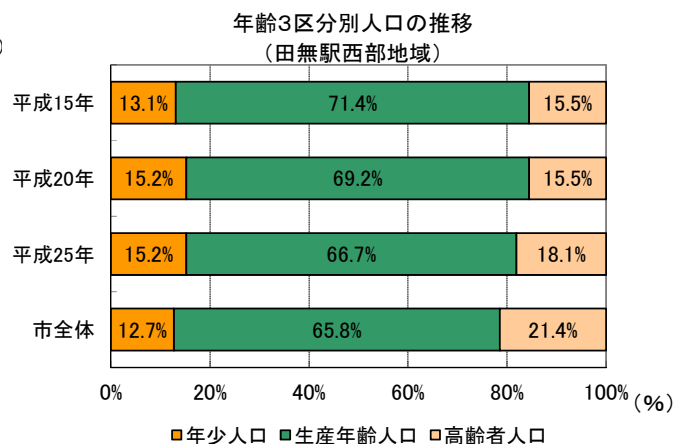
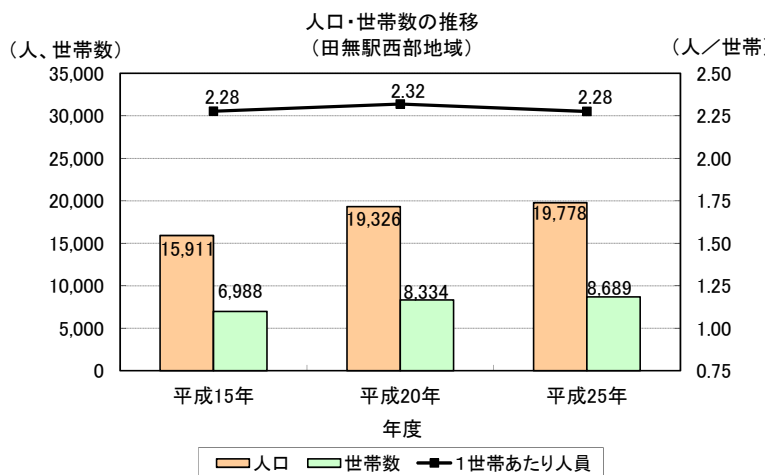
① 概況

市西部に位置し、田無駅西方向の地域で、低層住宅地の中に、工場や農地などが混在する地域です。昭和初期にシチズン時計田無工場や三共田無工場といった大規模工場が建設され、社宅の建設により人口が増加しました。近年、工場の一部移転により民間マンションや商業施設などに転換しました。また、昭和59(1984)年に総合体育館が開館したほか、都立小金井公園・田無市民公園などがあり、市民のいきいきの場となっています。



② 人口・世帯

人口が市内で最も増加している地域です。少子高齢化が進行していますが、市内では高齢者の割合が最も少ない地域です。



※各年1月1日付住民基本台帳より

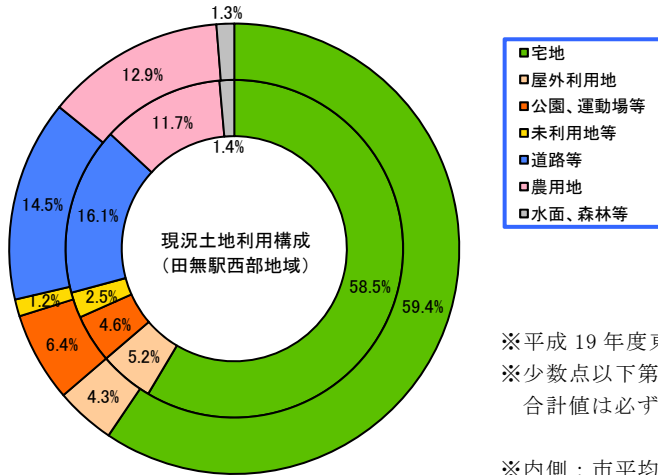
※年少人口：0～14歳

生産年齢人口：15～64歳

高齢者人口：65歳～

③ 土地利用

大規模工場が立地しているため、工場地の割合が市内でも高い地域となっています。そのほかは、低層住宅と農地が中心の地域です。



※平成 19 年度東京都土地利用現況調査 (多摩部) より
 ※少数点以下第 1 位を四捨五入しているため、
 合計値は必ずしも 100 とならない

※内側：市平均 外側：本地域

④ みどり・水辺・景観

地域内に都立小金井公園、田無市民公園、けやき台公園、上向台公園、芝久保一丁目さくらの丘公園、芝久保三丁目ふれあい公園があります。地域の南部を、狭山・境緑道 (多摩湖自転車歩行者道) が東西に横断しています。地域の南部を、東西方向に石神井川が流れています。市民公園グラウンドや総合体育館・向台運動場といったスポーツ施設が多く分布しています。

⑤ 交通環境

地域内の主要な道路として、青梅街道 (主要地方道 5 号) などが通っています。西東京 3・3・3 号新五日市街道線をはじめ、都市計画道路 5 路線が計画されています。「田無駅入口」から花小金井駅、地域南部から武蔵境駅・吉祥寺駅へ向かうバス路線があります。田無駅北口から芝久保地域を經由して、多摩六都科学館へいたるコミュニティバス* (はなバス) が運行しています。

* コミュニティバス：路線バスの運行していない地域を運行する小型バスで、本市では「はなバス」の愛称で運行

⑥ 防災・人にやさしいまちづくりなど

広域避難場所*として、都立小金井公園が指定されています。避難広場*として芝久保小学校、芝久保調節池*、田無第一中学校、上向台小学校、向台調節池、都立田無高等学校が指定されています。地域の中央部などに、避難や緊急車両の通行が困難な狭い道路や行き止まり道路がみられ、防災面での危険性が指摘されています。



都立小金井公園



向台運動場（向台調節池）



田無市民公園

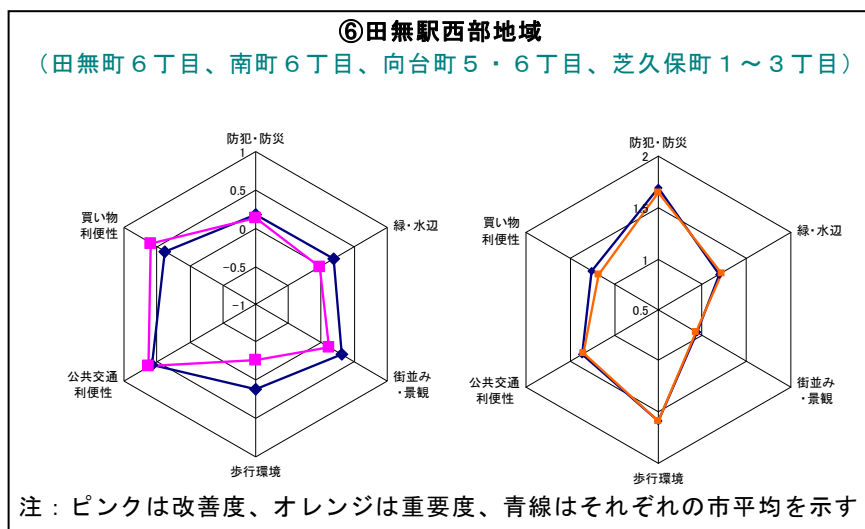


多摩湖自転車歩行者道

- * 広域避難場所：大地震等の発生に伴う延焼火災やその他の危険から避難者の生命を保護するために必要な面積を有する大規模公園や緑地等
- * 避難広場：広域避難場所へ避難する前に近隣の避難者が一時的に集合して様子を見る場所、または避難者が避難するために一時的に集団を形成する場所で、集合した人々の安全が確保されるスペースを有する学校のグラウンド等
- * 調節池：増水時に河川の水位を調節するため、河川沿いに設置される池

(2) 地域の意識

平成 24 年の西東京市市民意識調査における田無駅西部地域住民のまちづくりに関する意識を見ると、緑・水辺、街並み・景観、歩行環境の改善度が市平均を大きく下回っており、改善の余地が大きいことが分かります。



(3) 地域のまちづくり上の課題

① 土地利用

本地域には、市の産業を支える工場が多数立地しています。周辺の住宅地との共存に配慮しながら、今後も操業環境を維持していくことが求められます。また、将来的には産業構造の変革により、土地利用の転換の可能性もありますが、そのような場合に、計画的な土地利用を誘導していくことが重要となります。

② みどり・水辺・景観

本地域には、都立小金井公園や田無市民公園、狭山・境緑道（多摩湖自転車歩行者道）などがあり、市民に親しまれる空間となっています。石神井川が流れていますが、コンクリート護岸となっており、水と親しめる空間とはいえません。今後は、石神井川の親水化・多自然化の取組みとともに、狭山・境緑道（多摩湖自転車歩行者道）の保全・充実や「みどりの散歩道」の整備などにより、地域全体にみどりと水のネットワークをつくりだしていくことが求められます。

③ 交通環境

西東京 3・3・3 号新五日市街道線や西東京 3・4・26 号新小金井久留米線などの都市計画道路が計画されていますが、道路交通の利便性を向上させるとともに、防災性や住環境を向上させるためにも、整備促進が課題となっています。

④ 防災・人にやさしいまちづくりなど

地域の防災性の向上を図るため、生活道路の整備による避難路の充実が求められます。石神井川について、洪水対策が必要とされます。

（４）地域の将来像

「いこいと活力の共存するまち」～田無駅西部地域～

都立小金井公園・田無市民公園、石神井川の水辺空間、狭山・境緑道（多摩湖自転車歩行者道）などの立地を活かして、いこいの空間の保全と創出を目指します。市の産業を支える工場が多数立地し、都立田無高等学校、総合体育館などの施設もみられることから、活力あるまちづくりも目指します。

（５）地域のまちづくりの方針

地域のまちづくり方針については、先に設定した3つの戦略的テーマに留意しつつ分野ごとに整理すると以下のようにまとめられます。

① 土地利用の方針

低層住宅と中層住宅を中心とした地域内において住環境の保全・改善を図りながら、地域内に残る農地との共生も目指します。市の産業を支える工場と周辺住宅地との共存を規制・誘導します。将来土地利用転換が行われる場合には、可能な限り産業機能の維持を図りつつ、望ましい土地利用のあり方を検討し、周辺環境との調和に配慮した計画を誘導します。

② みどり・水辺・景観のまちづくりの方針

田無市民公園は、適切に維持管理を続け、将来にわたって大切に保全します。人にやさしいまちづくり条例によって確保された公園・緑地や児童遊園の保全と充実を目指します。新たな整備についても検討します。石神井川の水資源を活かして、親水空間の整備や緑道化の可能性を検討します。周辺の公園・緑地との連携や散歩道などによるみどりと水のネットワークの形成を図ります。地域内に散在する小規模な緑地の保全と充実、建物の敷地内や屋上・壁面の緑化、生垣化などを総合的に進めることで、地域全体にわたってみどりを保全・創出します。

③ 交通環境の方針

東西都市軸である西東京3・3・3号新五日市街道線、南北都市軸である西東京3・4・26号新小金井久留米線について、事業化を目指します。生活幹線道路は、周辺の都市計画道路の整備とともに歩行者優先化を図り、沿道の壁面後退*により歩行空間を充実するなど、歩行者が安心して歩ける道路づくりを目指します。狭い道路やクランク状の生活道路が多く危険箇所がみられるため、その改善に努めます。長期的な取組みとして、西武新宿線の踏切をなくし、車や歩行者がスムーズに通行できるよう、連続立体交差化の実現に向けた取組みを進めます。

④ 防災・人にやさしいまちづくりなどの方針

広域避難場所に指定されている都立小金井公園、避難広場の向台調節池や田無第一中学校などへのアクセスの改善に努め、地域の防災性の向上を目指します。農地付近にみられる暗がりの解消を図るため、照明設置などの設置を検討します。工場と周辺住宅地との間に植栽帯をはじめとする緩衝帯を設けることなどにより、環境対策を推進します。地域内に立地する各種の公共公益施設のバリアフリー化*を推進します。南芝久保庚申塔などの歴史的資源を保全・活用することで、地域の文化を後世に伝えます。

* 壁面後退：建物の外壁面を道路境界線より敷地の内側に下げたところに設けること

* バリアフリー化：障壁を取り除き、誰もが利用しやすい都市環境をつくること

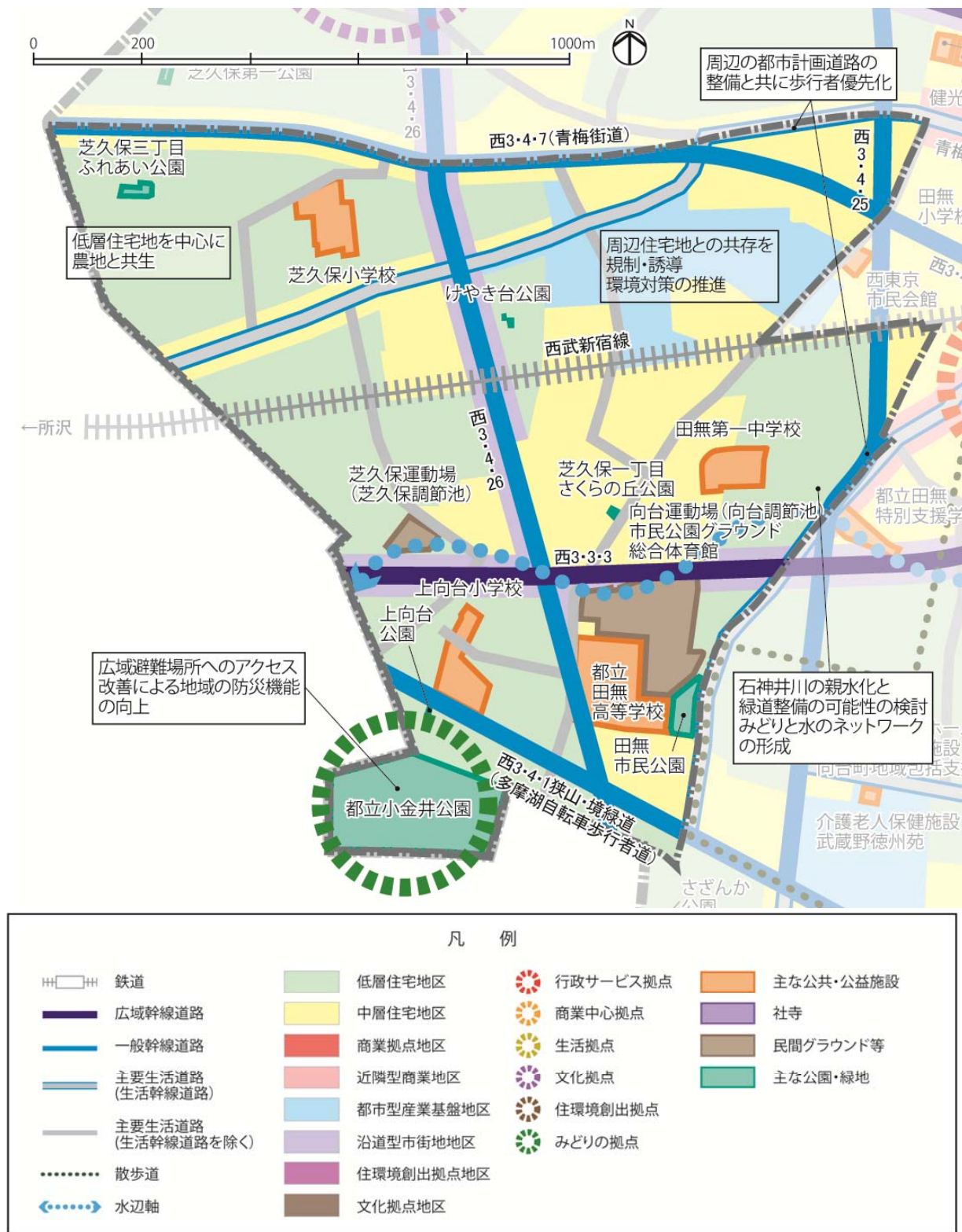


図2-7 田無駅西部地域まちづくり方針図